

第3回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概要)

先般開催した、令和元年度 第3回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和元年12月12日（木曜日） 13時25分～15時15分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 検討結果

国有林材の供給調整の必要はないとの結論となった。

4. 主な意見等

- トドマツについては、製品受注の落ち込みもあり、十分とはいえないまでも原木在庫はある。ただし、大径木に不足感はない。
- カラマツの原木在庫は、全体的に不足感はあるものの、受注の落ち込みもあることから均衡がとれている状況。
- チップ用原料材は、バイオマス燃料も含めて不足感がある。
- 素材生産は、昨年よりも順調で進んでいる。一方、冬季に入ってから雪が降ったり溶けたりを繰り返し、現場はぬかるんでいる状況。
- 本州へのトドマツ・カラマツ原木の移出が昨年より増えていて、トドマツとカラマツの比率が、去年は4対6だったのが、今年は5対5になっている。本州にカラマツの需要はあるものの、供給できない状況である。ただし、トドマツについては今後、移出量が減り道内に流通するようになると思われる。

- 米中貿易摩擦による輸出の落ち込み等により、梱包材・パレット材の需要にかげりが見られる。また、パレットのプラスチック化も進んでいるので、木製パレット等の木製品の良さをPRし、利用促進をしていく必要がある。

- 木質バイオマス発電の原料として、末木枝条の利用を進めており、今年は4割を超え、来年は5割に向け計画しているところもある。